

# 発展する植物工場の現状と将来展望

植物工場の収益性分析 収益向上のポイント 新規参入の可能性 機器メーカーの展開動向

## 完全密閉型人工光植物工場市場

- ★ 国内で稼働中の植物工場 収益性分析！！
- ★ 収益を向上させる要因を徹底分析！！
- ★ 植物工場向けシステムメーカーの動向を解析！！
- ★ 海外進出企業動向、ビジネスの可能性考察！！

## 各種栽培システム市場

- 発行：2013年7月3日
- 定価：70,200円(本体65,000円+税8%)
- 体裁：B5判/213頁
- 実査/編集：株式会社テクノ・クリエイティブ

## 刊行のねらい

1990年代後半から、安全な農産物の確保―「食の安全」、食料自給率の向上が叫ばれ始め、また一方で、農業従事者の高齢化による生産効率の低下、若年層の農業離れ、廉価な輸入野菜の増大などにより、安全な農産物の高効率生産は、農業を維持・発展させる上で、避けては通れない課題となっている。また地球温暖化の影響と思われる異常気象や天候不順は、農産物価格の著しい変動を生んでいる。こうした背景の下、密閉された工場建屋風の施設で、土壌を使わず、培養液に苗を植え、人工の光を照らし、温度・湿度・風量・ミスト等、全ての条件をITで制御し、管理する「植物工場」(完全人工光型植物工場)が増加している。

本レポートは、その完全人工光型植物工場にターゲットを絞り、川下分野である植物工場の収益ビジネスモデルの分析、川上分野であるシステム・機器市場動向に注目することで、当該分野に参入している企業・団体あるいは新規参入を検討している企業・団体の事業計画・戦略立案に供する調査レポートを企画した。

## 構成および内容

### 第1編 先発植物工場のビジネスモデル分析

#### 1章 収益黒字ビジネスモデル条件・提案

1. コスト面(損益分岐点分析)
2. 販売戦略(販売価格/商圏)
3. 栽培品種

#### 2章 先発植物工場の収益分析/要因

1. 収益黒字(拡大)工場の分析
2. 収益赤字(撤退/事業縮小)工場の分析

#### 3章 植物工場個票分析

1. 生産規模別

2. 工場投資額別
3. 工場設備仕様別
4. 生産品種別
5. 商圏別

#### 4章 対象植物工場個票

1. 工場名
2. 所在地
3. 設置事業者
4. 栽培開始時期
5. 工場様態
  - 5-1. 投資額
  - 5-2. 栽培面積

- 5-3. 栽培品種
- 5-4. 収穫サイクル
- 5-5. 歩留率
6. 品種別収穫量
7. 売上高(2010年及び2012年実績)
8. 栽培システムの特徴
9. 設備内容
10. 販売体制
11. 商圏
12. 原価構成(2010年及び2012年実績)
  - 12-1. 売上高
  - 12-2. 地代

## お申込みは電話またはFAXで！

TEL 03(3553)0112

FAX 03(3553)0114

編集発行元



〒104-0041 東京都中央区新富1-7-8  
イタクラビル7F・8F  
電話 03(3553)0112  
<http://www.techno--create.co.jp>

## 注文書

貴社名	フリガナ		
部署			
お名前	フリガナ	TEL	
		FAX	
E-mail			
ご住所	〒□□□-□□□		
品名	発展する植物工場の現状と将来展望		
定価	70,200円(本体65,000円+税8%)	部数	部

- ※ 書籍ご注文後、請求書を送付いたします。
- ※ 発送は入金確認後、翌営業日になりますが、在庫の状況によっては多少お届けに時間がかかる場合がございます。お急ぎの際はお問合せ下さい。
- ※ 上記のご記入事項は新刊または既刊のお知らせのために利用する場合がございます。

# 構成および内容

- 12-3. 光熱費
- 12-4. 減価償却費
- 12-5. 人件費
- 12-6. 輸送コスト
- 12-7. 収益
- 12-8. 収益変動要因
- 13. 現在の課題
- 14. 今後の動向及び事業計画

## 第2編 新規植物工場事業調査編

- 1章 新規植物工場事業化企業・団体リスト
  - 1. 参入契機
  - 2. 参入目的
  - 3. 企業形態
  - 4. 母体企業の植物工場事業への注力度
- 2章 新規植物工場分析
  - 1. 生産規模別分析
  - 2. 工場投資額別分析
  - 3. 工場設備仕様別分析
  - 4. 生産品種別分析
  - 5. 商圏別分析
- 3章 主要企業・団体個票
  - 1. 新規事業化企業・団体名
  - 2. 参入時期
  - 3. 工場・事業体名称
  - 4. 工場概要(所在地/資本・出資金/従業員数)
  - 5. 事業化目的
  - 6. 工場様態(第1編4章の5と同様項目)
  - 7. 品種別収穫量
  - 8. 栽培システムの特徴
  - 9. 設備内容
  - 10. 販売体制
  - 11. 商圏
  - 12. 現状の評価及び課題
  - 13. 今後の方針・計画

## 第3編 植物工場向けシステム・機器の国内市場

- 1章 システム・機器別主要参入メーカーリスト
  - 1. 植物工場・栽培システム
  - 2. 自動制御
  - 3. 光制御
  - 4. 空調
  - 5. 冷暖房・温湿度
  - 6. 養液培地
  - 7. 炭酸ガス供給システム
  - 8. 機械化・省力化
- 2章 機器別仕様概要
  - 1. 植物工場・栽培システム
  - 2. 自動制御
  - 3. 光制御
  - 4. 空調
  - 5. 冷暖房・温湿度
  - 6. 養液培地
  - 7. 炭酸ガス供給システム
  - 8. 機械化・省力化
- 3章 機器別市場規模推移
  - 1. 植物工場・栽培システム
  - 2. 自動制御
  - 3. 光制御
  - 4. 空調
  - 5. 冷暖房・温湿度
  - 6. 養液培地
  - 7. 炭酸ガス供給システム
  - 8. 機械化・省力化
- 4章 主要メーカーの販売動向
  - 1. 過去3年間の販売実績推移(台数・金額)
  - 2. 主要メーカー別主要販売先
  - 3. 各社の販売戦略
- 5章 業界提携マップ
- 6章 機種別開発動向及び問題点
- 7章 今後の市場規模予測

- 8章 主要機器メーカー分析
- 9章 主要機器メーカー個票
  - 1. 企業概要
  - 2. 植物工場向け事業内容
  - 3. 参入経緯
  - 4. 機器仕様
  - 5. 特徴・優位性
  - 6. 販売価格
  - 7. 販売実績
  - 8. 協業関係

## 第4編 システム・機器メーカーの海外挑戦編

- 1章 主要参入メーカーリスト
  - 1. 企業名
  - 2. 参入目的
  - 3. 生産品種
  - 4. ターゲット市場分析
    - 4-1. 参入障壁
    - 4-2. 商流
    - 4-3. 品種別流通価格
    - 4-4. 先発海外企業の動向
- 2章 主要システム・機器海外進出メーカー個票分析
  - 1. 参入目的
  - 2. 収益性
  - 3. 生産品種
  - 4. ターゲット市場
  - 5. 現状の評価と今後の課題
- 3章 主要システム・機器海外進出メーカー個票
  - 1. 企業名
  - 2. 参入時期
  - 3. 参入目的
  - 4. 生産品種
  - 5. ターゲット市場・地域とその背景要因
  - 6. 収益性見通し
  - 7. 現状の評価・課題
  - 8. 今後の動向・計画

## 内容見本(アウトプットイメージ)

